

公開実用 昭和54—38189



実用新案登録願 (3)

(3,000円)

昭和52年 8月 19日

特許庁長官

殿

適

1. 考案の名称

ジヨウキヘツセイソウチ ツキデンキ

蒸気発生装置付電気オーブン

2. 考案者

住 所 大阪市阿倍野区长池町22番22号

シャープ株式会社内

氏 名 ウエダ コシ アキ
上 田 順 皓 (他2名)

3. 実用新案登録出願人

住 所 大阪市阿倍野区长池町22番22号

名 称 (504) シャープ株式会社

代表者 佐 伯 旭

4. 代理人

住 所 〒545 大阪市阿倍野区长池町22番22号

シャープ株式会社内

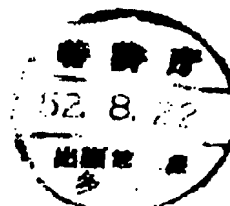
氏 名 弁理士 (6236) 福 士 愛 彦

連絡先 電話 (東京) 260-1161 東京支社機密課

5. 添付書類目録

- (1) 明 細 書
- (2) 図 面
- (3) 委 任 状
- (4) 願 書 副 本

- 1 通
- 1 通
- 1 通
- 1 通



54-38189
万 式 査 (6)

52 111751

明 細 書

1. 考案の名称

蒸気発生装置付電気オーブン

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 加熱室底部に蒸気発生用の水槽を設けると共に、該加熱室内に焙焼室の加熱若しくは水槽内の水を加熱すべく兼用のヒーターを反転可能に取り付けた事を特徴としてなる蒸気発生装置付電気オーブン。
2. 上部ヒーター及び下部ヒーターの両方を反転可能とし、これら上部ヒーター及び下部ヒーターの何れか一方若しくはその両方で水槽内の水を加熱するようにした事を特徴としてなる上記実用新案登録請求の範囲第1項記載の蒸気発生装置付電気オーブン。
3. 前記水槽を加熱室底部に一体成型した事を特徴としてなる上記実用新案登録請求の範囲第1項及び第2項記載の蒸気発生装置付電気オーブン。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、1つの器体内で焙焼調理若しくは蒸し調理を単独若しくは同時に行い得るようにすることにより調理範囲を拡大すると共に、焙焼調理用のヒーターと蒸気発生用のヒーターとを兼用させることにより部品点数を削減しコストダウンを計り、構造簡単且つ安価な蒸気発生装置付電気オーブンを提供せんとしたものである。

従来の蒸気発生装置付電気オーブンに於いてはヒーターを内蔵する加熱室外に別個の蒸気発生装置を備え、この蒸気発生装置からの蒸気を適当な手段にて加熱室内に導入するようにした構造のものであるが、此の種のものでは構造が複雑となるのみならず加熱室内を加熱する加熱ヒーターとは別個に蒸気発生用のヒーターを設けなければならずコスト的に高くつくという欠点があった。

本考案は上述欠点を除去すべく考案されたもので、以下図示の一実施例により詳細に説明する。

1は加熱室2を形成する内箱3とこの外周を囲繞する外箱4との間に断熱空間層5を形成した調理器本体にして、その前面開口部には把手6を取着

した扉体 7 を開閉自在に装着してなる。8 は上記内箱 3 の底部に一体成型された水槽にして、蒸気発生用の水を貯溜するものである。9 は内箱 3 の後壁中腹部（約 $1/2$ 高さ）にプラグ機構 10 を以って反転且つ着脱自在に取り付けられる上部ヒーターにして、略 J 型をなしその反転操作によって加熱室 2 の上部若しくは水槽 8 内に位置するようになっている。11 は内箱 3 の後壁下部にプラグ機構 12 を以って反転且つ着脱自在に取り付けられる下部ヒーターにして、前記上部ヒーター 9 と略同様に J 型をなしその反転操作によって加熱室 2 の下部若しくは水槽 8 内に位置するようになっている。この下部ヒーター 11 の高さ h は上部ヒーター 9 の高さ H よりも小さく、又第 2 図若しくは第 3 図に示す如く上部ヒーター 9 及び下部ヒーター 11 の両者を水槽 8 内に没入させた状態にはこれら上部ヒーター 9 及び下部ヒーター 11 の加熱部は同一平面上になるように形成している。尚 13 は内箱 3 の内側壁に取り付けられた棚受具である。

従って、本考案調理器の使用にあたって、焙焼調理のみを行いたい場合には第1図に示す如く上部ヒーター9を加熱室2の上部に位置させると共に、下部ヒーター11をその破線で示す如く加熱室2の下部に位置させると良く、又焙焼調理と蒸し調理とを同時に行いたい場合には上部ヒーター9を加熱室2の上部に位置させると共に、下部ヒーター11をその実線で示す如く水槽8内に位置させれば良い。この場合、下部ヒーター11は水槽8内の水を加熱して蒸気を発生させると共に、上部ヒーター9は加熱室2の上部より被調理物を加熱する。又、蒸し調理のみを行う場合には第2図に示す如く上部ヒーター9を反転させて内箱3に取り付け、上部ヒーター9及び下部ヒーター11の両方を水槽8内に没入させれば良い。この場合には、水槽8内の水は上部ヒーター9及び下部ヒーター11の両方からの熱を受けて短時間に蒸気を発生し蒸し調理を行う。

本考案は、以上の如く構成されるものであるから1つの調理器で焙焼室及び蒸しの両方の調理を

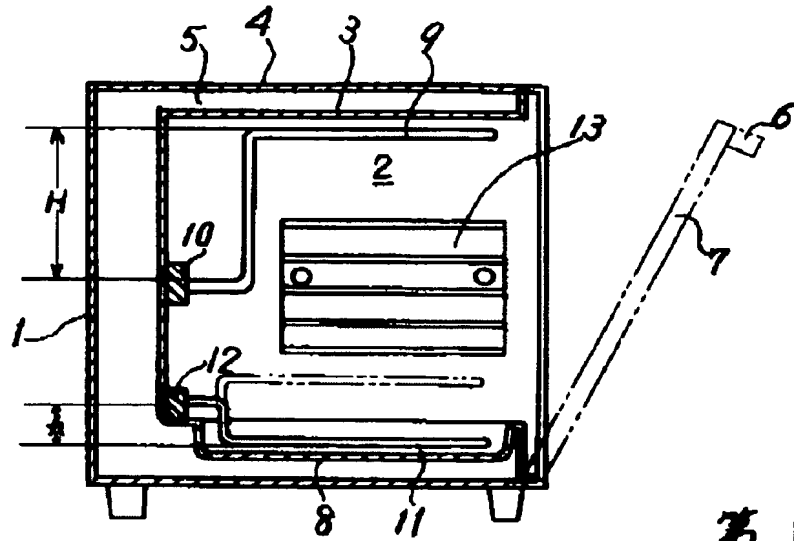
同時若しくは単独に行え調理範囲が拡大するのみならず、焙焼室の加熱と水槽内の水の加熱とを兼用ヒーターの反転操作にて行うものであるから、蒸気発生装置用のヒーターとして別個に設ける必要がなく構造簡単にして安価に製作することができ、又ヒーターを水槽内に没入させる場合でも該ヒーターを反転して差し変えるだけで良いので極めて操作も簡単に行うことができるという顕著な作用効果を奏し得るものである。

4. 図面の簡単な説明

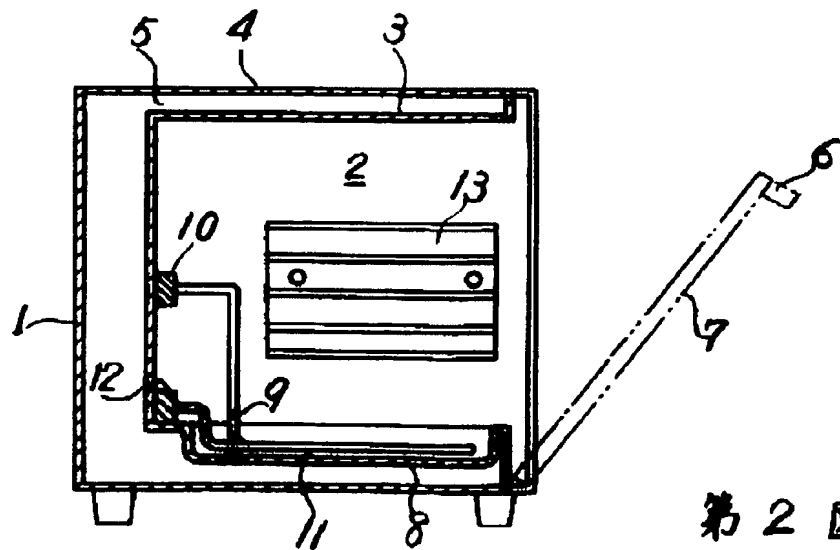
第1図及び第2図は本考案電気オーブンの異なる使用状態の側面断面図、第3図は第2図のヒーター取り付け状態を示す概略構成図である。

2：加熱室、3：内箱、8：水槽、9：上部ヒーター、11：下部ヒーター。

代理人 弁理士 福 士 愛 彦

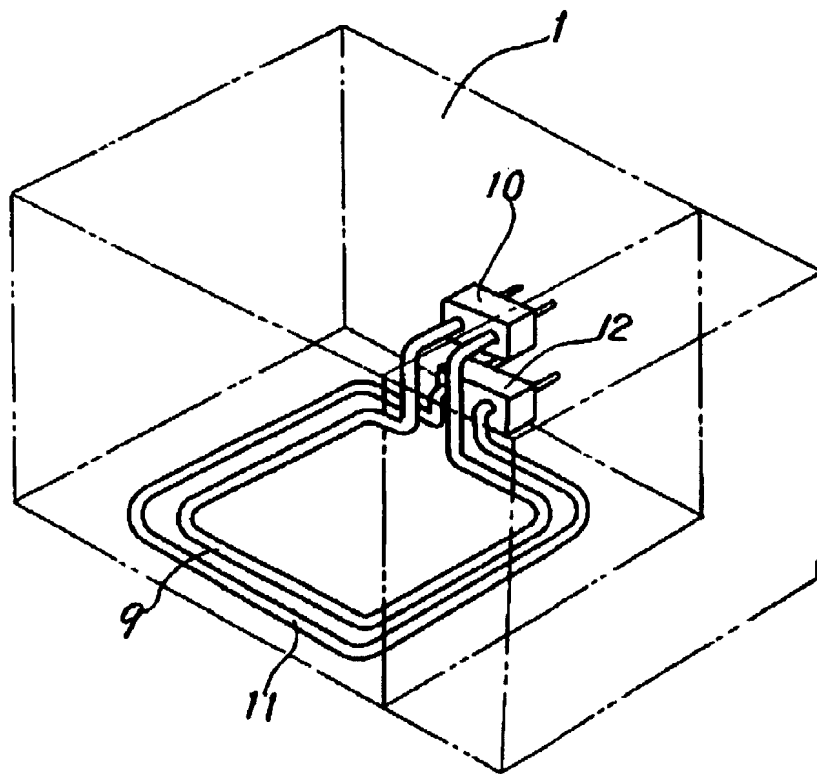


第1図



第2図

38189 Y/2
シャープ株式会社
代理人 富士愛彦



第 3 図

2/2

種々式樣の
 各種の
 各種の

6. 前記以外の 考案者

住 所 大 阪 市 阿 倍 野 区 長 池 町 2 2 番 2 2 号

シャープ株式会社内

氏 名 カワ チ タダシ
河 内 正

住 所 大 阪 市 阿 倍 野 区 長 池 町 2 2 番 2 2 号

シャープ株式会社内

氏 名 カワ ゲチ シュウ ジ
川 口 修 司

54-38189